新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行　新美南吉記念館　〒475-0966　愛知県半田市岩滑西町1-10-1　Tel. 0569-26-4888　http://www.nankichi.gr.jp

①

②

③

ごんの秋まつり

～南吉のふるさとに 300 万本の彼岸花～

①見頃を迎えた彼岸花（10 月 1 日撮影）
②彼岸花に包まれた堤を行く花嫁行列（9 月 29 日撮影）
③南吉童話の街頭紙芝居屋さん（南吉童話お話の会でんでんむし）

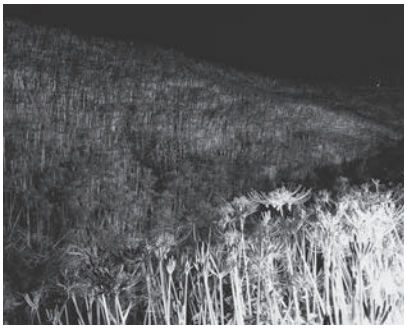
暑さ寒さも彼岸まで、といいますが、今年は記録的な残暑により、彼岸を過ぎても大変な暑さが続きました。九月二十日（金）～十月四日（金）にかけて開催した「ごんの秋まつり」も、ほぼ全日夏日のようでした。

例年、秋まつりの期間中は記念館の北を流れる矢勝川に、三百万本の彼岸花が咲き誇ります。まさに南吉が「ごんぎつね」に書き込んだ、『ひがん花が赤い布（きれ）のようにさきつづいて』いるような景色を見るため、県内外から多くの方が訪れますが、今年は残暑の影響により彼岸花がなかなか咲きませんでした。開花の遅れは全国的な傾向だったようで、矢勝川の彼岸花が見頃を迎えたのも九月の末頃になりました。

ただ、開花が遅れた分、十月に入ってもしばらく花を楽しむことができました。秋まつりは十月四日までしたが、十月六日（日）の時点でも、ひっきりなしに花を見に来られる方がいたほどです。期間中来場者数は十三万人で、訪れた方々は、照り付ける日差しの中、彼岸花に彩られた童話の世界を思い思いに歩いていました。

中でも盛況だったのが九月二十九日（日）に行われた「彼岸花の結婚式と花嫁行列」です。もともと二十三日（月・祝）の予定でしたが、台風のため延期したところ、見事彼岸花の見頃と重なりました。新郎新婦が矢勝川の堤を行くと、居合わせた人々が手を

振ったり声をかけたりして、二人の門出を祝福しました。そのほか、二十三日・二十八日（土）に半田青年会議所が彼岸花のライトアップを行い（左写真）、ワークショップで作った灯籠も並べて、夜の矢勝川堤を彩りました。



＊

今年一月、彼岸花の植栽や管理を行っている「矢勝川の環境を守る会」の二代目会長、榊原幸宏さんが亡くなられました。その後、同会は「矢勝川の彼岸花を守る会」へ改称。会長の野口恒雄さんを始め会の方々が堤の手入れに勤しまれ、地元の学校・地域によるボランティア活動も行われて、今年も矢勝川堤に彼岸花が咲き誇りました。

家族みんなで安城へ！

十月十四日（月・祝）、小学生とその保護者を対象に、「安城　親子バス見学会」を開催しました。

今年は、南吉が安城に下宿を始めて八十年です。南吉は安城高等女学校に勤務する傍ら、執筆活動を本格化させ、初めての童話集や数々の名作を生み出しました。今回のバス見学会は、そんな安城での南吉について、より詳しく知ってもらうために開催しました。

見学会では、まず詩碑やゆかりの地を巡りながら、南吉が下宿していた大見家へと向かいました。途中、南吉も歩いた商店街に差しかかると、子どもたちは南吉ウォールペイントを見ながら、どのお話がモチーフになっているかなどを話し合っていました。

①

②

下宿先では、大見家現当主の大見博昭さんとまゆみさんご夫妻が、下宿についてのお話をしてくださいました。下宿先の子孫の方が、直接南吉が暮らしていた時のことを話されるとあって、子どもたちも真剣に聞いていたのが印象的でした（写真①）。下宿先ではその後、石川恵深（えみ）さんによる南吉童話の朗読と手品の披露があったり、希望者に有料で「おいしい村」のごんちゃん弁当（写真②）が配られるなどして、楽しい時間が過ぎていきました。

最後に、南吉が伝記を書こうとした都築弥厚を祀っている明治川神社に立ち寄って、見学会は終了しました。今回のことが、安城時代の南吉作品にもっと興味を持ってもらえるきっかけになればと思います。

また、同じく安城に焦点を当てた特別展「日本丁抹（デンマーク）と南吉の暮らし」が、十月二十七日（日）に終了しました。寄せられた感想を一部ご紹介します。

＊

○安城時代の南吉さんのこと、よく分かりました。作家、新美南吉は安城にあったのですね。下宿にもぜひ訪れてみたいと思います。

○牛のはなしを百ぺんつくろうとしたのに三ぺんしかつくれなかったのがびっくりしました。

○小野内秋美さんの話が特に印象に残っています。「ほら、花（鼻）が咲いたよ」の一文で思わず笑ってしまいました。南吉さんは本当にユーモアにあふれたすてきなことをするお方だったのですね。さらに好きになりました。

○親子で来ました。私も息子も小学校の教員です。教員時代の南吉先生は生徒思いのすばらしい先生であったことを実感しました。情景描写のすばらしさは自然の中での生活がもとなのでしょうか。

○生い立ちも複雑で、長じてからも病気がちで幸薄い人という印象を持っていました。日本丁抹での暮らしを知り、南吉の生涯の中の明るい側面を知ることができて嬉しいです。

○晩年の南吉の生活、心情もさることながら、教え子の方に受け継がれた学ぶことの大切さ、安城の下宿先の保存活動など、とても感慨深く、今一度南吉への思いを新たにしました。

○安城時代の生活が楽しいものだったろうな、と思いをはせました。

○南吉さんのこと、半田のこと、安城のこと、弥厚さん。知らなかったことがたくさんわかりました。

群馬県立土屋文明記念文学館で企画展

みんなの「ごんぎつね」～新美南吉からのメッセージ～

七月十三日（土）から九月二十三日（月・祝）まで、群馬県立土屋文明記念文学館で、新美南吉の生涯と文学、「ごんぎつね」をテーマにした企画展が開催されました。

①

土屋文明記念文学館は、アララギ派の歌人で万葉集の研究者として知られる土屋文明（明治二十三年～平成二年）の生地、群馬県高崎市にあります。同館は彼の生涯や関わりのあった文学者などを時代を追って紹介しているほか、企画展の開催や、県内小学校を対象に短歌に親しむプログラムを実施するなどの事業・活動を行っています。

群馬県と南吉といえば、安城高等女学校の教諭時代、一週間ほど万座温泉に滞在したことがあります。『良寛物語 手毬と鉢の子』（昭和十六年／学習社）に続く伝記物語を、明治用水の発案者、都築弥厚を題材に書こうとしていた折、長野方面に執筆旅行に出かけ、温泉場で宿を探した南吉が最終的に落ち着いたのが群馬県の万座温泉でした。結局、伝記は完成しませんでしたが、彼の弥厚伝執筆への思いの強さを感じさせるエピソードとなっています。

今回は、万座温泉で書かれた手紙を始め、当館から貸出した自筆原稿や日記、遺品約五十点と絵本などが展示され、南吉の生涯や「ごんぎつね」の作品世界が紹介されました（写真①）。続く一室には、絵本作家かすや昌宏さんが、あすなろ書房の『ごんぎつね』のために描いた光彩画が展示され（写真②）、幻想的な雰囲気の中で物語の世界に浸れる空間になっていました。

期間中、県内の高校放送コンクール入選者による「ごんぎつね」の朗読会や、かすや昌宏さん、新美南吉記念館学芸員らによる記念講演会が催されたほか、地元高校の美術部が作成した線画で「ごんぎつね」のぬり絵ができるスペースが設けられているなど、南吉ファンや家族連れなど様々な来館者が楽しめるよう工夫が凝らされていました。

まずは文学館に来てもらうことが目標という同館の担当者。今回はいつもより多い四六七五人が来場したとのことで「夏休み期間中、子どもや教師が多く来場してくれた。親子で楽しめる展示になり良かった。」と話していました。

②

ベラルーシからの贈り物

九月、東ヨーロッパのベラルーシ共和国にある日本情報文化センターの代表、辰巳雅子さんから、ベラルーシの子どもたちが描いた南吉童話の読書感想画が寄贈されました。

感想画は、いずれもベラルーシ共和国の首都ミンスク市にある、国立青少年教育センター所属のハーモニー絵画教室に通う生徒たちの作品です。

今回、教室の中でベラルーシ語訳した南吉童話集の読み聞かせがあり、授業の一環として読書感想画を描くことになったのだそうです。その中から、絵画教室のエレーナ・ブラト先生が、辰巳さんを介して記念館へ十六点の感想画を送ってくださいました。ベラルーシでは、二〇一六年に日本情報文化センター※からロシア語版の南吉童話集が出版されています。

届いた感想画には、「ごんぎつね」、「二ひきの蛙」、「でんでんむしのかなしみ」、「あめだま」、「かんざし」など、いろいろな作品のものがありました。中には着物や竹といった、ベラルーシにはないものを描きこんだ絵もあり、日本の文化を勉強しながら描いたのでしょうか。どの絵もすぐに南吉作品が思い浮かんでくるほど、しっかり読み込んで描かれているのが分かります。

異国の地で訳された、南吉童話。その読書感想画が、こうして南吉の故郷へ送られてくるというのは、南吉作品の世界への広がりを感じずにはいられません。今回寄贈された絵は、全て記念館で展示予定です。

※ベラルーシの公用語はベラルーシ語とロシア語の二種類

記念館からのお知らせ

企画展「ストップモーションアニメーションごんの世界」

ストップモーションアニメ「ごん／GON,THE LITTLE FOX」の公開を記念して、「ごん」の世界を絵コンテ、台本、人形と美術セットなどでご紹介します。

期間　11月2日（土）～令和2年1月13日（月・祝）

場所　記念館展示室

※高校生以上は観覧料（220円）が必要です。

朗読コンサート～月に捧げる愛の詩（うた）～

ストップモーションアニメ「ごん」の上映付き朗読コンサートです。ピアノとオーボエのアンサンブルを南吉作品の朗読と共にお楽しみください。

日時　11月30日（土）19時～21時（予定）

場所　半田空の科学館プラネタリウムホール

対象　小学生以上（未就学児は入場できません）

定員　200名（自由席）

出演　平山晶子（ピアノ）、山本直人（オーボエ）、南吉童話お話の会でんでんむし（朗読）

演目　「愛の挨拶」（エルガー）、「白鳥」（サンサーンス）、「月の光」（ドビュッシー）、星に関する曲メドレーなど

入場料　大人1000円／小・中学生800円

チケット　南吉記念館、空の科学館、知多半田駅前観光案内所にて販売中

えと人形を塗ろう

来年の干支は子（ね）です。半田市に江戸時代から続く乙川人形を使い、素焼きの人形に色づけをします。

日時　12月7日（土）、8日（日）午前の部　10時～11時30分　午後の部　13時30分～15時

場所　南吉記念館工作室

対象　どなたでも

定員　各回25名（先着順）

参加費　500円（一人一体）

申込み　11月9日（土）9時30分から電話又は窓口へ

※1件の申込みは5名まで

凧作り＆凧あげ体験

オリジナルの凧を作って凧あげをしよう！

日時　令和2年1月5日（日）、13時～16時

場所　南吉記念館工作室

対象　小・中学生（小学3年生以下は保護者同伴）

定員　15名（先着順）

参加費　400円

持ち物　はさみ、ものさし、帽子、手袋

申込み　11月16日（土）9時30分から電話又は窓口へ

※1件の申込みは5名まで

※荒天時は凧作りのみ

以上の事業への問合せ・申込みは新美南吉記念館まで℡0569（26）4888

日誌抄・・

八月（葉月）

▼3日「夏休み！ごんぎつね教室」。29名参加▼10日　ミュージアムトーク。22名参加▼10日～17日「南吉クイズ」。639名参加▼12日「ウグイス笛を作ろう」。19名参加▼13日「火打石・石臼体験」。55名参加▼24日　岩滑地区有志がマツバボタン畑で除草作業▼25日　ミュージアムトーク。6名参加▼同日第169回新美南吉読書会。12名参加

九月（長月）

▼1日　豊田自動織機エンジン事業部東知多組長会32名が矢勝川周辺で除草作業▼5日　半田農業高校一年生68名が記念館と矢勝川周辺でごみ拾いと除草作業▼8日　群馬県立土屋文明記念文学館で当館学芸員が講演。演題「愛と哀しみの作家　新美南吉の生涯と作品」▼15日　第31回新美南吉童話賞、作品募集締切。応募総数1561編▼16日　ミュージアムトーク。7名参加▼18日　LIXIL観光地トイレおもてなし清掃隊16名が記念館でトイレ掃除活動▼20日「ごんの秋まつり」始まる（～10月4日）▼同日「あつまろうみんなの南吉展」始まる（～10月4日）▼同日　岩滑小学校で出前授業。59名参加▼21日、22日「拓本体験」。116名参加▼22日「ガイドと朗読付き彼岸花ウォーク」。8名参加▼23日「サヤ佳のおはなし会」。58名参加▼同日　彼岸花のライトアップ▼24日　さくら小学校で出前授業。41名参加▼26日「ガイドと朗読付き彼岸花ウォーク」。11名参加▼同日　有脇小学校で出前授業。21名参加▼27日　乙川東小学校で出前授業。78名参加▼28日　ミュージアムトーク。13名参加▼同日　彼岸花のライトアップ▼29日「彼岸花の結婚式と花嫁行列」開催